

鳥羽院はをさなくおはしましける時、ひあひなることなどもありて、瀧口が顔に、小弓の矢射たてなせさせ給ふと人もしりけるを恐れ給ひけるにやなせど人は申ぬる、又公實のむすめ子を御子にして、もたせ給たりけるをば、法性寺殿藤原忠通をむことらんとおぼしめして、すでにそのさたありける程に、日なみなせえらばるゝに及びたりけるが、玄かるべくてさはりおほくいできいできして、いまだとげられざりける程に、知足院殿むすめをえまゐらせじと申されけるに、あたに御はらだちて、待賢門院をば、法性寺殿の儀をあらためて、やがて入内ありけるとぞ、鳥羽院は、あやにくにおとなしくならせおはしましては、殊にめでたき御心ばへの君におひなりてこそはおはしましけれ、さて白河院は、かの公實のむすめをとりて、御子にしてもたせ給へりけるを、鳥羽院に入内立后してぞおはします、待賢門院と申はこれなり、

〔玉海〕承安元年十二月十四日甲寅、此日院姫君入内也。中略女御其衣裏濃蘇芳云云、入道相國清盛女、

法皇白河御養子、永久例云々、但彼者自誕生之昔撫育之禮、隨又主上御孫也、仍於儀無妨、今度已可

爲姊妹歟、尤以有忌如何、二年二月十日己酉、此日有冊命皇后事女御德子爲中宮、

〔中右記〕寛治五年十月十九日、殿下忠實藤原初令參陽明門院後朱雀后給、是依女御入内之事也、

廿五日庚辰、有三品篤子内親王鳥羽后入内之事、是後三條院第四女、母贈太后藤茂子、太上皇先有御

使右近少將藤顯實朝臣及亥剋寄御車毛糸、女房車十輛檜櫛、女房十八人、前駟殿上人皆參、中略其後公卿殿

上人有饗饌之事中略、今夜女房御使、掌侍源盛子源頼朝朝臣、有祿、女装束、御衾、役殿下北政所、凡入内之儀、一事以上關白

殿令御沙汰也。中略

十一月二日丙戌、女御入内之後、有三夜併事、併民部卿所被調進也、

〔帝王編年記十九〕中宮篤子内親王後三條院第四皇女、寛治七年三月廿二日立后、

前後養子爲后